

令和2年度阿寒摩周国立公園エゾシカ対策協議会 議事概要

日時：令和3年2月17日(水) 13:30～15:30

場所：釧路圏摩周観光文化センター

議事

- (1) 阿寒摩周国立公園エゾシカ対策実施計画の策定について
- (2) 情報共有のあり方について
- (3) その他

<出席者一覧>

所属・役職	氏名
環境省釧路自然環境事務所 統括自然保護企画官（議長）	田邊 仁
林野庁北海道森林管理局計画保全部保全課 監査官	根田 祥一 [WEB]
根釧東部森林管理署 次長	山田 広幸
根釧西部森林管理署 地域林生調整官	阿地 克美
網走南部森林管理署 総括地域林政調整官	欠席
十勝東部森林管理署 総括事務管理官	齊藤 孝次
北海道環境生活部環境局自然環境課 エゾシカ担当課長	(代理) 主査 栗林 稔 [WEB] (随行) 釧路総合振興局 自然環境係長 小室 一也 主事 川西 啓太
清里町産業建設課 課長	欠席
小清水町産業課 課長	畔木 雅之
足寄町経済課 課長	村田 善映 (随行) 主査 野村 将継
標茶町農林課 課長	(代理) 係長 宮澤 匠
弟子屈町農林課 課長	(代理) 主査 西内 博光
白糠町経済部経済課 課長	(代理) 係長 平野 雄士
鶴居村産業振興課 課長	(代理) 主査 和田 彰
一般財団法人前田一步園財団森林保全課 課長	酒井 賢一 (随行) 主事 時田 勝広

釧路市産業振興部農林課（阿寒農林振興担当） 主幹	(代理) 主任 佐久間 時広
釧路市阿寒町行政センター市民課（環境担当） 課長	(代理) 課長補佐 冨坂 伸幸
津別町産業振興課 課長	(代理) 主査 大矢根 健一
美幌町経済部耕地林務グループ 耕地林務主幹	(代理) 主事 佐藤 広基 [WEB]
大空町産業課 課長	(代理) 主査補 仙石 陸
中標津町経済部農林課 課長	(代理) 係長 櫻井 忠宏

地方独立行政法人北海道立総合研究機構 道東地区野生生物室長	長 雄一
同 研究主任	亀井 利活 [WEB]

<環境省・事務局>

環境省釧路自然環境事務所国立公園課 国立公園企画官	松尾 浩司
同 世界自然遺産専門官	高辻 陽介
同 生態系保全等専門員	佐々木 伸宏
同 生態系保全等専門員	川村 胡桃
阿寒摩周国立公園阿寒湖管理官事務所 国立公園管理官	上村 兼輔
阿寒摩周国立公園管理事務所 自然保護官補佐	小池 綾奈
特定非営利活動法人 EnVision 環境保全事務所 理事長	赤松 里香
同 研究員	小林 恒平
同 研究員	中村 秀次
同 研究員	工藤 知美

<意見概要>

発言者	内容
環境省 佐々木	<p>それでは、会議をはじめさせていただきたい。はじめに環境省釧路自然環境事務所長の田邊からご挨拶申しあげる。</p>
環境省 田邊	<p>今回は第2回目の協議会ということで、阿寒摩周国立公園エゾシカ対策実施計画の内容を確定させたい。また、情報共有のありかたについても議論を深めていきたい。</p> <p>また今回は道総研が作成した「囲いワナによるエゾシカ捕獲の手引き」についても道東室の長室長より解説を頂く。</p>
環境省 佐々木	資料確認
EnVision 小林	新型コロナウイルス感染拡大防止のための諸注意
(1) 阿寒摩周国立公園エゾシカ対策実施計画の策定について	
環境省 松尾	<p>資料 1-1、1-2 の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の会議で言及していた6章のアクションプランについては現時点で具体的な内容の作成が困難と判断。5年間の対策の概要として、巻末に「5年間の対策整理表」を添付する形にした。 ・ 道総研が作成中の「森林植生に及ぼすエゾシカの影響把握に関する手引き（仮称）」が完成したら、実施計画の巻末資料として加えたい。手引きの完成時期によっては実施計画の策定期間もずれる（令和3年4月付けになる）可能性がある。 ・ 2025年度には計画見直しにあたり有識者の意見を聞きながら検討するワーキンググループの設置を考えている。
前田一步園財団 酒井	<p>計画が明確になって心強い。阿寒地区では無積雪期の対策については自分たちだけではいい知恵も出ないので、皆さんと知恵を共有しながら進めていきたい。本計画の主旨に賛同いたします。計画本文、資料 1-2 では阿寒地区の捕獲対策について、手法検討と対策試行と明記されているので、5年間の対策整理表においても捕獲の試行は点線扱いではなく実線扱いのほうが実態に近いのではないかと。</p>
環境省 松尾	<p>なかなか数年後の状況まで見通せない部分があるので点線にしていたが、そのような前提をご理解いただいているということで、ご指摘の通り実線に変更する。</p>
北海道立総合研究機構	計画策定においては目標設定が重要だが、現時点で何かあ

長	るか。
環境省 松尾	実施計画案の2-2の対策目標で考え方は記載しているが、数値目標は現時点では難しい。知床や釧路で暫定的な目標を定めるにあたって、多くの科学的データを基に議論を重ねている。今後計画を進めていく中で、調査や皆様からのデータを利用しながら、将来的には具体的なものが見えてくればと考えている。
北海道立総合研究機構 長	目標は定めたほうがいいのでは。（現計画案の）目標はアバウトなので、何のたぐいに対策をしているのかがわからなくなる。釧路でも知床でも、道総研も協力しながら目標を決めてきたので、今後5年間でそれを決めていくということでいいのではないか。
環境省 田邊	定性的な目標ではなく、明確な数値があったほうが動きやすいということか。
道総研 長	定性的なもので良い。釧路湿原の目標はラムサール条約登録時より前の状態に戻すというアバウトなものだが、あるのとないのとでは違う。
環境省 松尾	ラムサール条約登録時を基準と設定している釧路湿原の例を阿寒摩周に応用しようとしたときに、いつの状態を目標にするべきかという議論から始めなければならないが、これだけでも非常に難しい。 釧路湿原でもラムサール条約登録時の湿原の植生を調べたが、結果的には良くわからない。そのため、現時点で明確な目標はあげにくい、5年間で具体的な目標が定められるよう努めていきたい。実施計画案の記載について良い修正案はあるか。
道総研 長	道総研では、宇野自然環境部長等が中心となり、1994年から、前田一歩園の林で囲い区を用いた調査をしているが、1994年の調査開始時点で、すでにエゾシカによる影響が顕著になっていた。現時点で目標設定が難しいなら5年間で具体的に検討し、公表して説明できるものにしていくべきでは。実施計画案の文言は修正不要だが、例えば5年間の対策整理表の中に目標設定検討に係る記載があった方がよい。
環境省 田邊	おっしゃる通りだと思う。目指すべき具体的な姿を明確にするためには時間がかかるが、協議会の情報共有や議論で

	明確化していく文面にする事はできるのではないか。
環境省 松尾	頂いたご意見を反映できるよう検討する。
(2) 情報共有のあり方について	
環境省 佐々木 Envision 小林	資料 2-1、2-2 の説明
道総研 長	(資料 2-2 図②について) 簡易チェックシートは大きなスケールで評価するためのもので、阿寒摩周というスケールに当てはめるとばらつきが大きすぎて評価できない可能性がある。調査には大きな空間スケールでの(網羅的な)調査と、小さいスケールでの詳細調査がある。スケールに合わせた調査手法を検討した方が良いのでは。
環境省 佐々木	簡易調査単独ではなく、色々な調査手法結果と組み合わせることで見えてくるものもあるということか。
道総研 長	例えば隣接地域と国立公園域を比較するといった場面では使える可能性がある。
環境省 佐々木 Envision 小林	資料 2-2 説明
環境省 田邊	紹介したのは、一つの見方なので、他の見方やご意見ご要望があれば。
環境省 松尾	今回はライトセンサスについては結果がどうまとめられ、共有されているかという共有例を出せていない。北海道庁及び道総研でどのような取りまとめられているか情報共有いただきたい。
道総研 長	北海道から猟友会に委託し、市町村が手伝っている。結果は全道的に集約し、道総研が科学的推定法をもちいて個体数を推定し、増減のトレンドを推定している。その結果を基に有識者と協議し、何頭捕獲すべきかという目標値を出している。そのため、市町村が頑張ってもらっているライトセンサスデータは、エゾシカの保護関知施策決定という大きな成果になっている。
道総研 長	ただ、ライトセンサスも大きいスケールの調査なので全道レベルで推定するにはいいが、阿寒摩周のスケールではトランセクト法など、ほかの方法を検討した方が良いのでは。
環境省 田邊	実施計画案については、他になければ今回を持って承認としたい。

	情報共有の方法については改善の余地があると考えていますので、随時、ご意見をいただければと思う。
(3) その他	
環境省 田邊	資料3に関して道総研から解説をお願いしたい。
北海道立総合研究機構 長	資料3の説明 「囲いワナによるエゾシカ捕獲の手引き」は1週間前に公表した(2月3日)。前半部分は囲いワナの一般的な事、後半では、無積雪期の草地での運用について書かれている。無積雪期の運用については白糠町さんにご協力いただいている。 ○前半部の解説 ・有効活用を前提とした囲いワナの基本的な構造である、囲い部、追い込み部、ゲート部について解説している。 ・道総研が開発した森林向けの小型囲いワナについて記載している。 ・自動撮影カメラを用いた捕獲適地の選定について記載している。 ○後半部の解説 ・無積雪期に被害が出ている草地で捕獲する方法について解説している。 ・従来の誘引して捕獲する方法と違い、誘導のための電気柵を用いて、森林から草地に出てくるエゾシカを誘導して捕獲する仕組みになっている。 ・牧草ロールを使うことでエゾシカに違和感を与えないようにしている。
環境省 松尾	夏場に囲いワナで捕獲する事例はあまり聞いたことがない。想定は牧場か。森林地域など、他の環境でも応用できるのか。
北海道立総合研究機構 長	囲いワナが設置できる環境であれば適用は可能。採草地では、ワナ内にエゾシカにとって魅力的な牧草を生やしているがそういった工夫が出来るのであれば適用できるのではないかと。山間部にある採草地などを想定して考えている。
環境省 松尾	斜面でも囲いワナの設置は可能か。
道総研 長	基本的には可能だが、牧草ロールを利用する場合やパネル式の場合は水平である必要がある。

環境省 田邊	本日、Web 参加の方から全体を通じて発言があればお願いしたい。
道総研 亀井	<p>今回の手引きは、囲いわな捕獲を実施するにあたっての要点を整理したものである。</p> <p>付属の草地適用型囲いわなについては牧草地での捕獲を目的としている。ほかの環境の場合は、いくつかの工夫が必要。国立公園の場合も無積雪期は餌資源が豊富であるという点は草地と共通だと思うので、誘引ではなくて誘導して捕獲するという考え方自体は適用可能かと思う。</p>
北海道森林管理局 根田	参考資料3で示した通り、捕獲事業に加え市町村との連携による捕獲支援事業を進めている。令和3年度の取り組みについては現時点ではまだ具体的には書けないが、関係機関との連携は強めていきたい。
北海道 栗林	参考資料4に示した北海道エゾシカ管理計画は現在5期目で、第6期計画を作成中。阿寒摩周は東部地域という枠に入っており、第5期計画では、平成5年の個体数指数を100として50以下に減らすことを目標にしている。現在のところ100以下にすらできていない。阿寒摩周国立公園の実施計画は北海道エゾシカ管理計画の地域計画にあたる形になるので第6期計画では、その旨も記載する予定。
環境省 田邊	閉会挨拶